

一般的に宝といえば、金銀財宝を思い起こすことでしょう。しかしお釈迦さまの説かれた、三つの宝「仏(ブツ)・法(ポウ)・僧(ソウ)」の三宝はそのようなものではありませんでした。

まず一つ目の「^{ぶつ}仏」は、ホトケという字を書きます。

たちと同じ人間であったお釈迦さまは、私たちと同じように生^{しょう}老^{ろう}病^{びょう}死^しに苦悩し、私たち以上に苦しみに目を向け、修行の末^{すえ}、さとりをひらき苦しみから脱することができました。

私たち仏教徒にとって、お釈迦さまは、^{あこが}憧れであり、^{りそう}理想であり、目標となる人です。そのお釈迦さまを「仏(ほとけ)」として、一つ目の宝としているのです。

二つ目は、「^{ほう}法」法則のホウのことです。

お釈迦さまは、菩提樹^{ぼだいじゆ}のもとで悟りを得られた時、縁起^{えんぎ}の法則を発見したと言われました。

法則は、発見しただけではただの法則です。

お釈迦さまは、この法則を私たちの生活実践のうえに説き教えられました。その教えこそが、二つ目の「^{ほう}法」なのです。

三つ目が、「^{そう}僧^{そうりよ}侶のソウと書きます。

^{そう}僧とは、詳しくは、僧伽^{そうぎや}のことであり、お釈迦さまの教えを守り、実践している善^よき仲間のことです。

お釈迦さまの弟子のひとりであるアーナンダが、お釈迦さまに質問をしました。「善き仲間をもつことは、修行の道^{なか}の半ばにもあたると思いますがいかがですか。」するとお釈迦さまは、「善き仲間をもつことは、修行の道のすべてである。」と答えられました。

一人では、道^{みちなか}半ばで諦^{あきら}めたり、ややもすると曲がってしまう修行の道も、善き仲間と一緒になら、まっすぐ進んで行くことができます。

善き仲間と、共に歩みながら、お釈迦さまの説かれた教えを守る。

これが、三つ目の宝「^{そう}僧」なのです。

私たち仏教徒の理想の人であるお釈迦さま・・・「仏（ほとけ）」

そのお釈迦さまが説かれた教え・・・「法（ほう）」

その教えを共に実践していく善き仲間・・・「僧（そう）」

この三つのうち、どれ一つ欠けても仏教そのものが成り立たないのです。

お釈迦さまは、この三さん宝ぼうにきえ帰依することで、弟子になることを許されたと、最も古きょうてんい経典に伝えられています。最後にその言葉を紹介いたします。

仏（ほとけ）に帰依したてまつる。

法（ほう）に帰依したてまつる。

僧（そう）に帰依したてまつる。